

県民のあゆみ 3

No.638



山形県広報誌
令和6年3月号

県民のあゆみ

No.638

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報広聴推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子
県ホームページアドレス <https://www.pref.yamagata.jp/>

2 特集

山形新幹線米沢トンネル(仮称)の早期実現に向けて

8 奏であう人

キラリと光る事業承継の形

16 潜入レポート!

箕輪鮭漁業生産組合ふ化場

📷 今月の表紙

若者の視点から公共交通の利用促進に向けたアイデアを話し合っている東北芸術工科大学の学生の皆さん。見る人が公共交通に魅力を感じ、利用したくなるようなロゴマークやポスターデザインの制作に、学科の枠を越えて取り組んでいます。(撮影協力: JR東日本)



どうなってるの!?

みの わ さげぎよぎょうせいさんくみあい かじょう 箕輪鮭漁業生産組合ふ化場

鮭を増やすための鮭ふ化場。 施設では、いったいどんな作業が行われているの?

おいしい鮭は、縄文人も食べていたんだって!
鮭の人工ふ化は、命をつなぐお手伝い。

川で生まれた鮭は、海を回遊した後、産卵のために産まれた川に戻る習性があります。明治時代に戻る鮭の数が減少したことから、鮭の保護と増殖を目的に、人が卵を育てる「人工ふ化」の取り組みがはじまりました。遊佐町には、毎年10月から12月までの間に、たくさんの鮭が川に戻ってきます。シーズン中、牛渡川に接した箕輪鮭漁業生産組合のふ化場では、「特別採捕許可」を得て組合員である地域の農家さんが、早朝から川の鮭を採捕し、卵を採取してきます。令和5年の採捕量は約2万匹とのことですが、歴史をさかのぼれば、8万匹を超す鮭を採捕した記録も残っているそうです。採取した卵は冬の間にふ化場で大切に育てられ、春には800万匹以上の稚魚が牛渡川に放流されるのです。遊佐町の小山崎遺跡では縄文人が食べた鮭の骨が見つかるなど、鮭は古くから人々の食生活に欠かせない魚です。鮭を守り増やすことは食を守ることでもあります。



大きな鮭がたくさん集まる光景は圧巻です!!



1匹から約3000粒の卵が取れます



箕輪鮭漁業生産組合 代表理事組合長
佐藤 仁さん
毎年たくさんの鮭が戻ってくるように人工ふ化に取り組んでいます。鮭の採捕作業に自由に見学できるほか、事前にご予約いただくと、鮭とばや寒風干しづくりも体験できます。近くに「丸池様」もありますので、ぜひ見学にきてください。



毎朝鮭と鬼ごっこ!?



鮭の生態を知るヒントに!



清らかな水が行き渡るふ化場



川に戻った鮭としては日本一の大きさ!

朝8時ごろから牛渡川に入り大きな網を使い、「ウライ」と呼ばれる仕掛けまで、ゆっくりと鮭を追い込みます。

鮭のうろこからは年齢が、耳石という組織からは人工ふ化した場所や放流した時期がわかるそうです。鮭の生態を知るため採取し、研究機関に送ります。

ずらりと並ぶのは、庄内式ふ化槽。水の入ったふ化槽の金網の上に卵が置かれ、ふ化する直前までここで飼育されます。

1977年に牛渡川で採捕されたオスの鮭。体長100センチで体重は14.3キログラム! 遊佐町の鮭は、比較的大きな個体が多いのが特徴だそうです。

👉ここに広告を載せませんか?

県民のあゆみは発行部数約40万部、県内全戸配布。
アンケート調査では回答者の**41.6%**が**情報収集に利用**しています(※)
※令和5年度山形県広報効果に関するインターネットアンケート調査より

◎掲載料: 1枠300,000円(税込)
中面のページ1枠 200,000円(税込)
◎問合せ: 県広報広聴推進課 ☎ 023-630-2087

県ホームページのバナー広告も募集中!
◎掲載料: 1枠50,000円/月

詳しくは

